

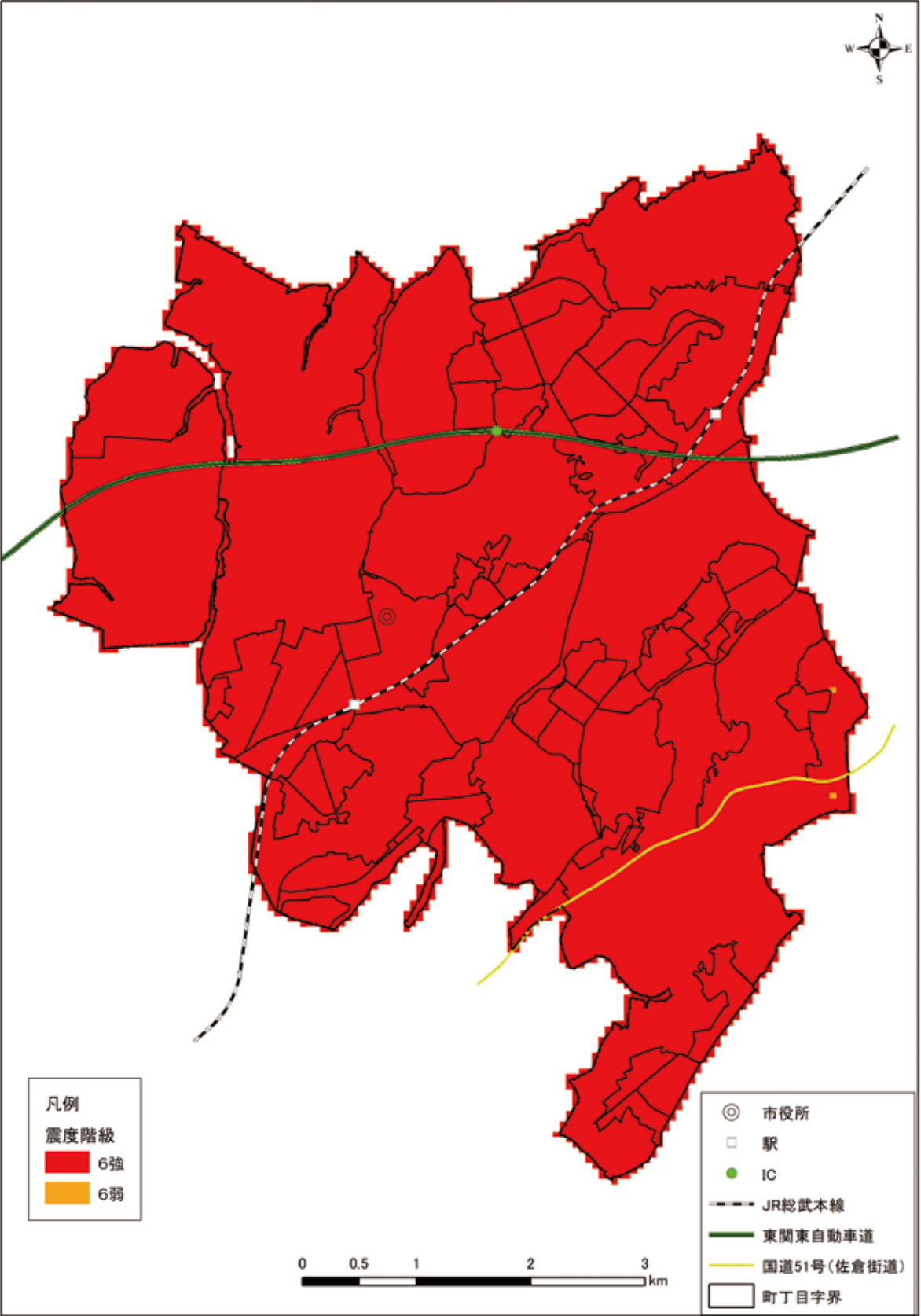
地震に備えて

想定される地震(四街道市直下地震)

想定震度分布図

四街道市では、内閣府の技術資料を参考に、全国どこでも起こりうる直下の地震として、四街道市の直下を震源とするM6.9の地震を想定しています。四街道市でこのような地震が発生した場合、市のほぼ全域で震度6強の揺れが発生し、家屋の倒壊や電気・ガス・上下水道等の生活インフラの被害が多発することが想定されます。また、避難路となる道路が陥没し、避難や物資輸送にも大きな支障をきたすなど、市全域に大きな影響を及ぼすことが想定されます。

そうした想定の中、日頃から地震に対する備えを心掛けたうえで、地震発生時の被害を最小限に抑えることが大切です。



四街道市防災アセスメント調査報告書(令和5年6月)

震度と揺れの状況

4 ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが目覚ます。 	5弱 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 	5強 大半の人が、物につかまらないうと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。 	6弱 立っていることが困難になる。 	6強 立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。 	7
---	--	--	---------------------------------	--	--------------

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

最初の大きな揺れは約一分間

- まず、自分の身を守る（机の下に隠れたり、手近な座布団などで頭を保護する）。
- すばやく火の始末（揺れが激しいときは無理をしない）。
- ドアや窓を開けて逃げ道を確保。
- 室内に居ることが危ないと判断した場合、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する。



1～2分

揺れがおさまったら

- 火元を確認（火が出たら、落ち着いて初期消火。※初期消火の限界は炎が天井に燃え移る前まで）。
- 家族の安全を確認（倒れた家具の下敷きになっていないかを確認）。
- 靴をはく（ガラスの破片の散乱から足を守るため、靴や厚手のスリッパをはく）。
- 避難するときは、屋根がわらの落下やブロック塀・自動販売機などの転倒に注意。

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 隣近所で助け合う（要配慮者の安全確保をする）。
- 行方不明者はいないか。
- ケガ人はいないか。

出火防止・初期消火

- 初期消火。
- 座布団、毛布、大きめのタオルなどの活用。
- 漏電・ガス漏れに注意（ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす）。
- 余震に注意。
- 消火器を使う。



3分

5分

ラジオ、スマートフォンなどで正しい情報を

- 大声で知らせる。
- 救出・救護。
- 市や防災関係機関などの情報を確認。
- デマにまどわされないように。
- 避難時に車は原則として使用しない。
- 電話の使用は控える。



10分

数時間

3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう（最低でも3日間、できれば1週間分備蓄しておく）。
- 災害情報・被害情報の収集。
- 無理はしない。
- 風呂水をためおきしておく（ただし、乳幼児のいる家庭では浴槽への転落防止のため工夫しましょう）。
- 助け合いの心が大切。
- こわれた家には入らない。
- 引き続き余震に注意。

屋内にいた場合

家の中

- 大きな揺れを感じたら、身の安全を確保し、揺れがおさまったらすばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- すばやく火の始末をする。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者、避難行動要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない。



劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠す。
- 係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、柱や壁ぎわに身を寄せる。
- 係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意する。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベータは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、周りの危険物に注意し、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- がけやブロック塀、自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。
- 注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。
- 座席に座っている場合には、低い姿勢を取り、カバンなどで頭を保護する。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保しつつ、安全を確認して道路の左側に停車する。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオなどで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたままあるいは目立つところにおいて、ドアロックをしないで、車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。